

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

**\* これぞ正統派 65 cm屈折望遠鏡写真**

65 cm屈折望遠鏡は国立天文台三鷹キャンパスのシンボリックな存在である。この望遠鏡の写真は数々あるが、今回収集したものは、「公開日の最初のポスターの原フィルム」と書かれた封筒に入っており、2001年7月23日の日付で畑中純さんより寄贈と書かれている。2001年にはすでに国立天文台になっていたが、公開日のポスターが作られたのが2001年が最初だったかどうかは検証が必要であろう。この原フィルムからスキャナーで取り込んだものが写真1である。



写真1 65 cm屈折望遠鏡

この写真を見るとスリットは半分しか開いていない。スリットが半分しか開かなくなってしまった後の写真であろう。2001年7月23日の日付は、この原フィルムの提供を受けた日であり、撮影されたのはもっと前であろう。65 cm屈折望遠鏡は1998年には役目を終え、静態保存された。東京天文台百年記念誌に載った65 cm望遠鏡が写真2である。

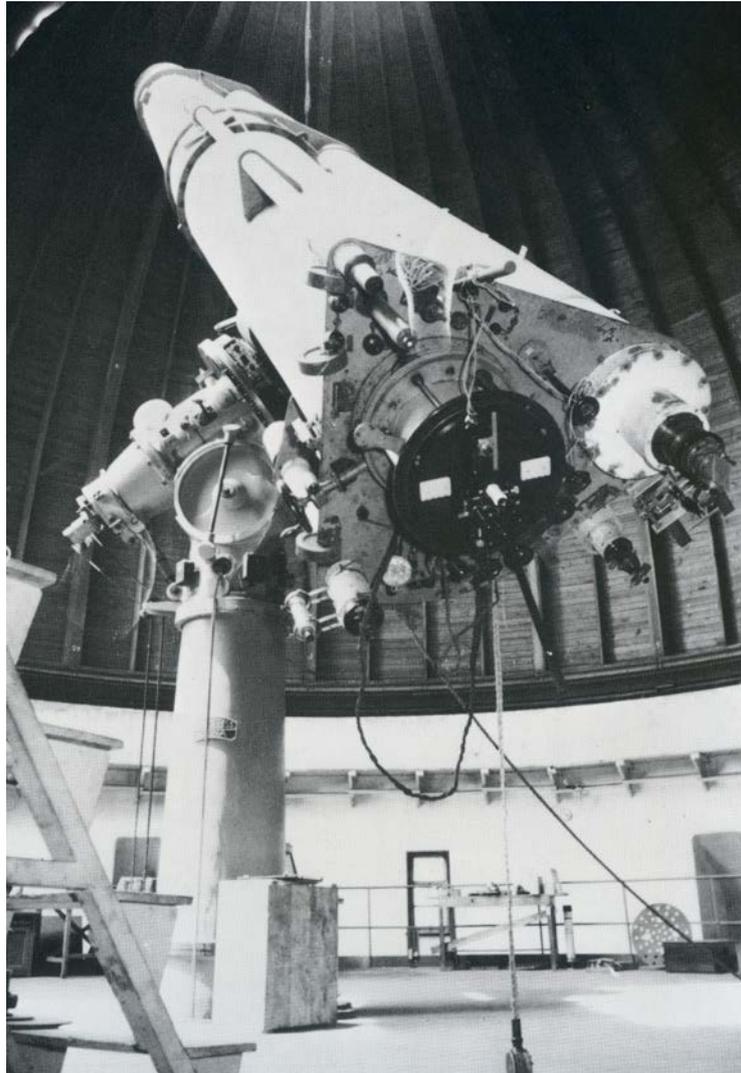


写真2 東京天文台百年記念誌に載った65 cm望遠鏡

表題に「これぞ正統派65 cm望遠鏡」と銘打ったからには、筆者の収蔵した写真を2枚加えておきたい。1枚目は65 cm望遠鏡ドームにあった窓が写っている写真である(写真3)。今でも65 cm望遠鏡ドームの内側からこの窓の痕跡が確認できる。この窓は、現在のドームの工夫である風を吹きぬかせるフラッシングのための窓ではなく、昼間の明り取りであったと考えられる。そして2枚目は65 cm望遠鏡が国立天文台歴史館になる以前の望遠鏡の姿である(写真4)。これは真ん中に宙に浮いたような昇降床が写っており、現在の歴史館の床が設置される前の幻想的な写真である。使用されなくなったドームが歴史館として有効利用されるのもよいが、このような姿が見られないのは残念である。この写真が撮影された時点でもすでにスリットは右半分しか開かない状態であったようだ。65 cm望遠鏡の姿を写した写真はたくさん残っているが、ドームの中は暗く、写真の感度がよくなる以前のもものは、それなりの歴史を感じさせるものではある。これらの写真は、デジタルデータとして保存されたから退色の心配はない。

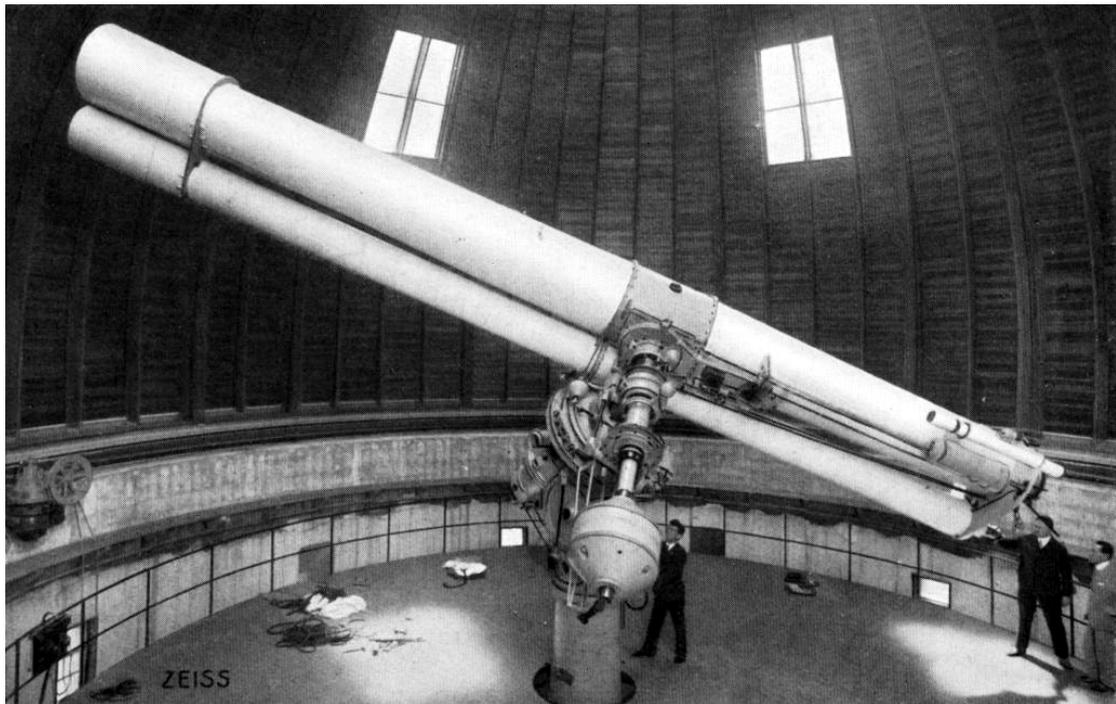


写真3 ドームに4個の窓があった時代の65 cm望遠鏡



写真4 国立天文台歴史館として活用される以前の姿

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)